

人生100年時代のライフイノベーション事業の実施背景

ポストベッドタウン、諸力融合環境に向けた取り組み

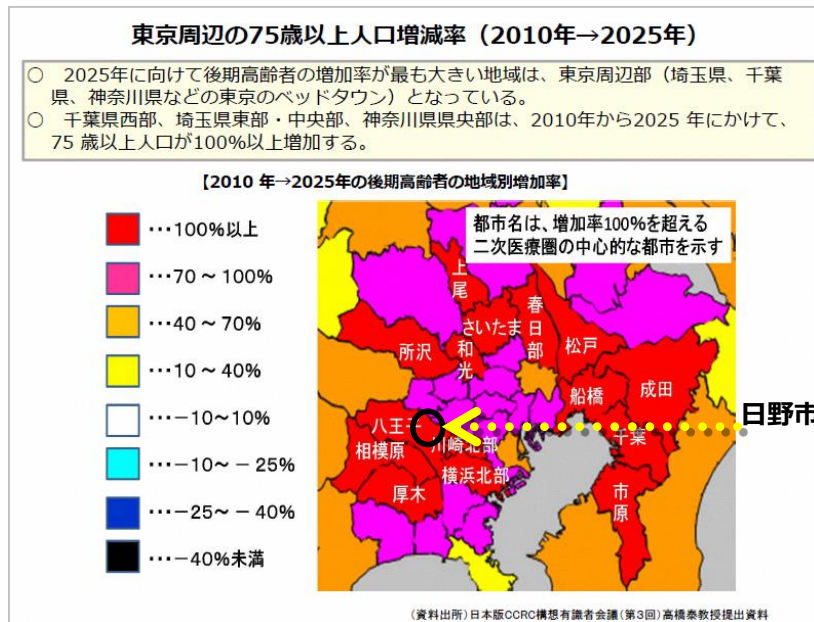
本事業は、日野市、まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、住み慣れた地域で生き、看取られる暮らし(地域包括ケアシステムの実現)に資する取り組み令和元年から実施する事業です。
懇談会ディスカッションシート7P(3)の補足説明資料として添付させていただきます。

企画経営課



人生100年時代のライフイノベーション 事業実施の背景となる課題

● 今後、高齢課題が最大の課題となる都心郊外部のベッドタウン



高齢課題“最”先端地域となるベッドタウン

- 都心郊外部のベッドタウンは“**高齢課題先進国日本**”の中でも、今後、後期高齢者人口が急増し、また独居の高齢者の比率が非常に高くなると推計されています。

※ 2040年の高齢世帯のうちの独居の割合45.8%（全国1位）

（2019年4月19日 国立社会保障人口問題研究所発表資料より）

課題解決に向けた日野市の取組

- 日野市は都内でも最も後期高齢者の増加率の高い南多摩の区域にあり、団塊ジュニア世代の居住人口の比率も高いことから、**2040年以降にはさらに深刻な高齢課題に直面します。**

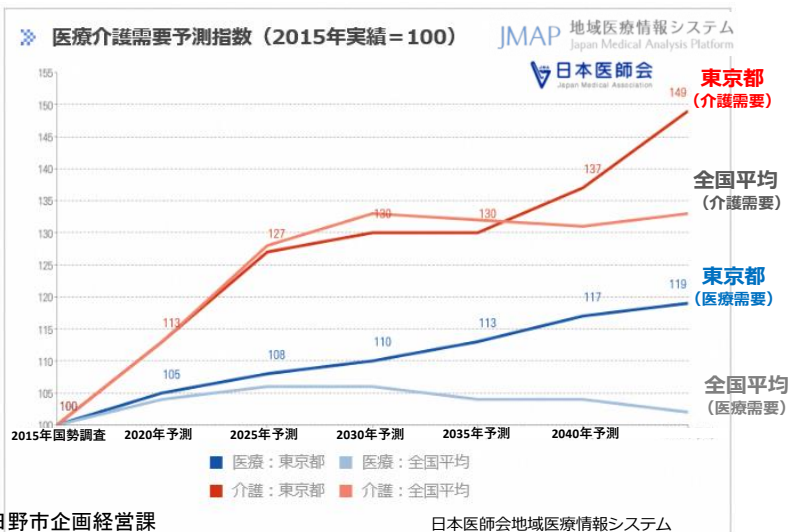
- 日本医師会の地域医療情報システムの推計では、東京都は全国平均と比較して**2030年以降に介護需要が急速に高まり、医療需要も上昇**を続けることになります。

- 一方では日野市の強みとしては**研究開発特性を有する企業が多く立地しており、社会課題、イノベーション活動**への関心も高い。

- 課題解決に向けては、従来型の医療・福祉施策では解決できません、問題の根幹を改めて検討し、新たな視点、異なるリソースの活用で不足する視点を補う事がが必要です。

- 課題先端地域であるベッドタウンにおいて、**誰ひとり取り残さない成熟社会**の在り方へ変革を目指した新たなモデル創出に向け、様々なパートナーとの共創により課題を克服するモデルづくりを目指します。

● 東京で伸び続ける介護・医療の需要



日野市は住み慣れた地域で生き看取られる暮らし・福祉・医療の展開を基本施策の一つに掲げているが東京都内は高齢者人口の増加から、これまでの医療・介護体制ではその対応が困難になる。そこで急がれているのが「地域包括ケアシステム」であり、病院や介護施設によらない地域、在宅での医療・介護体制の構築が求められています。

2010年
東京都の後期高齢者数123.4万人

病院完結型医療

救急・延命、治癒、社会復帰
一定の高齢者介護・生活支援
ニーズも病院が担ってきた

2025年
東京都の後期高齢者数197.7万人 74.3万人増加（約60%増加）

地域完結型医療

長寿化→慢性疾患患者などの増加により施設での対応は困難
QOLの維持・向上を目指した生活全般に渡る支援
・住まい ・移動 ・食事 ・見守り
(21世紀型のコミュニティの再生)
EX. 社会保障制度改革国民会議

「地域包括ケアシステム」

要介護状態となっても住み慣れた地域で「自分らしい暮らしを最後まで続けることができるよう、介護・医療・住まい・生活支援・予防が一体的に提供される地域体制、まちづくり

地域包括ケアシステムの5つの構成要素

「医療」「介護」「介護予防」「住まい」「自立した日常生活の支援」

一方で行政の視点は福祉・公的サービスであり、地域包括ケアシステムに必要な5つの要素のうち「住まい」や「自立した日常生活の支援」については、地域包括ケアに関連付けられた十分な施策が講じられていない状況です。

そこで、まち・ひと・しごと創生で取り組んだのが「住まい」と「自立した日常生活の支援」の問題の二つのテーマです。

人生100年時代の「新しい暮らし」を官民連携で実現

生涯活躍のまち

住み替えの仕組み検討分科会 (明星大学 大西先生)

ライフステージや世帯構成に応じた住み替え
既存の高齢化住宅地の対応と多世代化の誘導
(若年層世代の居住誘導)

暮らし充実 多世代交流分科会 (東京大学 後藤先生)

生涯活躍の基盤となる暮らし方、健康・コミュニティ
QOLを向上させる暮らし方（社会参画）

医療・介護・ヘルスケア産業分科会 (国立保健医療科学院 大多賀先生)

人生100年時代の
ライフイノベーション



※ 地域包括ケアシステムの概念図

■ 2025年、2040～の高齢化状況を見通した医療と介護の在り方

● 医療・福祉だけではない「広義」の視点からの地域包括ケアシステムの充実

・ 公的保険外のサービスの創出 ・ 新たな技術との連携

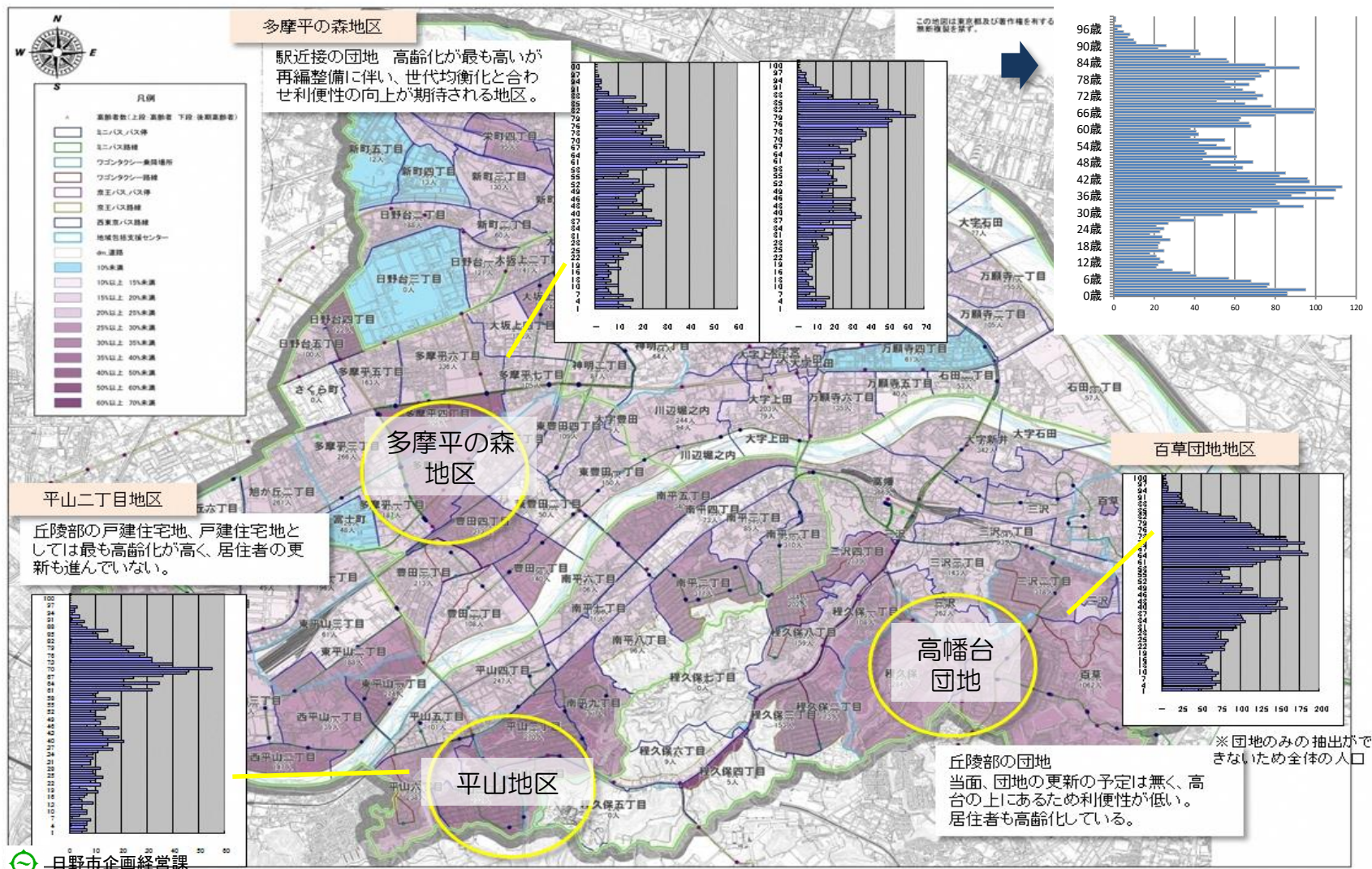
● 市民（患者、要介護者）も当事者として参加できる環境や仕組み

・ セルフケアマネジメント（自分ごとの健康管理や暮らし方、介護や医療の仕組みづくり）

生涯活躍のまち、人生100年時代のライフイノベーションにおける取組モデル地区

市内でも高齢化率、高齢者の居住人口が高い市街地状況の異なる3つの地域をモデルとして、住み替えや生活支援サービス、自立した生活・コミュニティ(互助体制)の実現に向け検討し、事業を進めました。

■ 日野市の高齢化率と検証モデル地区の選定



生涯活躍のまち、人生100年時代のライフイノベーションにおける取組モデル地区

多摩平の森地区

UR 地域医療福祉拠点化団地

駅前団地
再開発地区

駅前再開発地、従前の団地から継続的に居住されている方が多く、比較的高年齢(80歳代)の居住者が多い。一方で新規の住宅整備により若年層が急増している。シニアが住みやすいインフラ等が整っている。マンション、団地のほか新旧の戸建住宅もある。

課題

高齢者人口の集積、人口急増地域
新規の住宅供給(世帯・シニア向け)
学校・保育園など公共施設の不足
居住層が多様化(世代や居住形態)

強み

・市立病院、A3街区医療福祉集積
・商業施設や各種公共公益機能
・歩きやすい歩行空間、緑豊かな景観
・駅から近接の環境 ・多様な住宅ストック

平山台地区

丘陵部の戸建て
高齢化地域

丘陵部にある戸建住宅を中心としたエリア。丘陵部では開発時期が早く、市内でも最も高齢化が高い地域になっている。統廃合により廃校になった小学校が地域活動の拠点となっており、文化・スポーツなど様々な自主的活動が行われている。近接にある東京薬科大学とも認知症予防の活動で連携している。

課題

・人口減少が継続、少子高齢化
・児童数が減少
・公共公益機能が不足
・地形が厳しい

強み

・広くゆとりのある住宅ストック
・緑が多い、良質なインフラ
・コミュニティの意識も高い

高幡台地区

UR 地域医療福祉拠点化団地

丘陵部の
団地地区

丘陵部にある大規模団地、ストック活用の位置づけから建替え等の予定は現時点ではない。高齢者の絶対数が多いが、生活利便施設が入っていた号棟(73号棟)が耐震不足のため除却、その跡地の活用も含めた団地のまちづくり計画を検討中。

課題

・人口減少が継続、少子高齢化
・児童数が減少
・公共公益機能が不足
・地形が厳しい

強み

・賃貸・分譲を含む集合住宅ストック
・緑、空間が多い
・大学との近接、連携事業

上記の3つの異なる地域で、各地区の特性や資源、地域の活動主体と関係しながら、まちづくりの方向性を共有し、目的に沿った取組みを創出、当該取組事例等について他の地域への波及・展開を目指す。

「ライフイノベーション推進協議会」について

検討にあたっては、2017年に組織した「生涯活躍のまち推進協議会」を継承する形で「ライフイノベーション推進協議会」により継続検討を進めました。

区分	企業・団体名	区分	企業・団体名
学識経験者		大学関係者	実践女子大学
医療関係者	日野市医師会		明星大学
	日野市歯科医会	金融機関	多摩信用金庫
	南多摩薬剤師会	モデル地区住民代表	
	日野市立病院	福祉事業関係者	地域包括支援センター
	医療法人社団充会		日野市社会福祉協議会
公共交通	京王電鉄	市内企業	コニカミノルタ
住宅・不動産	ReBITA		GEヘルスケア・ジャパン
健康増進施設	フージャースHD		帝人ファーマ
社会教育等	社会教育センター	都市再生機構	
	シルバー人材センター	日野市職員	

目標：人生100年時代の「新しい暮らし」を官民連携で実現

取組推進の視点

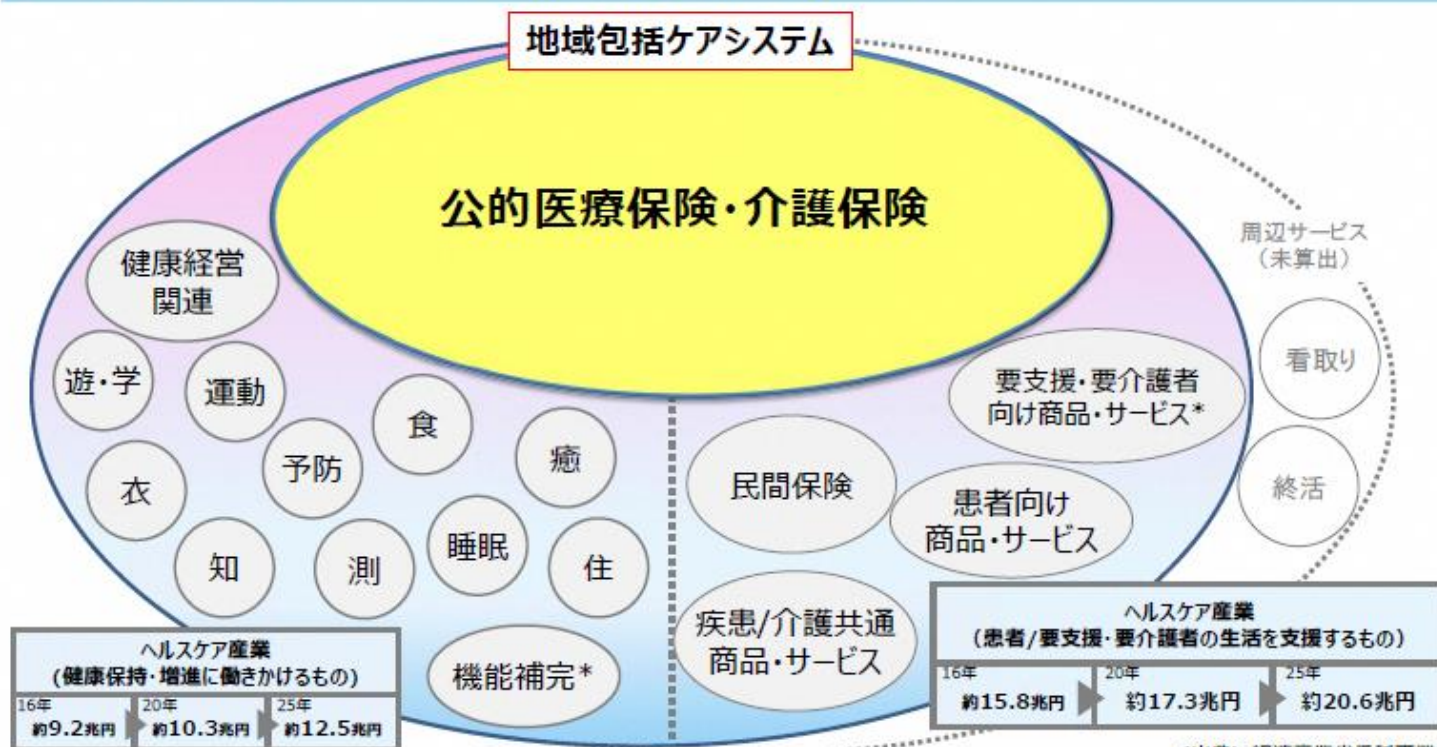
1. 地域での持続的な暮らしを可能にする様々な民間サービスの創出
2. 住み慣れた地域に暮らし続けるためのセルフケア・セルフマネジメント
3. 新しい暮らしを実現する官民の連携と実証・実装の場づくり

地域包括ケアに必要な要素として公的な医療・介護サービスを支える産業、公的保険以外の日常生活を支える産業があり、これらの分野は成長産業分野としても期待されています。

(参考) 人生100年時代の「新たなサービス」としての『ヘルスケア産業』（公的保険外サービスの産業群）

ヘルスケア産業（公的保険外サービスの産業群）の市場規模（推計）

- ヘルスケア産業（公的保険を支える公的保険外サービスの産業群）の全体像を整理した上で、民間調査会社等が既に試算している各産業分野の市場規模を集計し、現状及び将来の市場規模を推計。2016年は約25兆円、2025年には約33兆円になると推計された。
- 今後、ヘルスケア産業政策の動向等を踏まえ、随時見直しを行っていく。

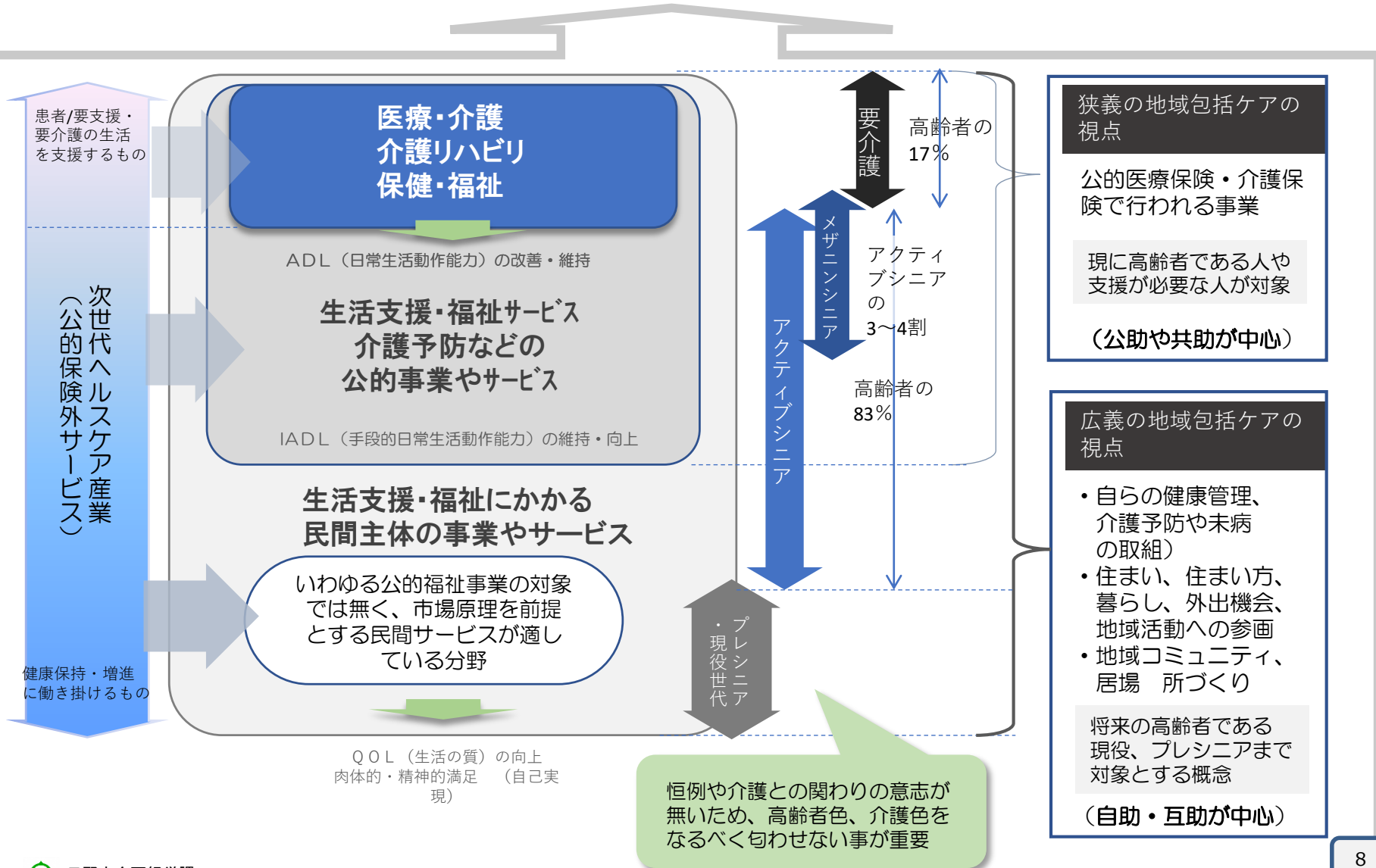


＜出典＞ 経済産業省委託事業

*データの制約上、公的保険が数兆円規模で含まれている。

高齢化の各段階と地域包括ケアシステムの視点

特に、現に要介護・要支援の状態に無い方には、公的サービスの優先度が低く。自らの選択によるセルフケア・セルフマネジメントを実現する民間サービスが適している分野と考えられる。



急増する高齢課題には受け皿的な施策だけではなく、セルフケア・セルフマネジメントの視点により医療・介護の負担を予防的に低減化する事も必要であり、これらの分野にも公的機関や医療・介護だけでなく、民間企業の参入への期待が期待される。

セルフケア, セルフマネジメント (個人)

大夢賀先生資料より

- **セルフケア** - より広義、かつ包括的に、自らに対するケア全般を指す。
- **セルフマネジメント** - 慢性症状に由来する様々な問題を自ら管理すること

セルフケアの
具体的内容

•健康を維持する

•不健康を予防する

•薬剤をより上手く使用する

•軽度の疾患

•長期にわたる健康問題の管理およびケアの改善

(Wyke 2006)

セルフマネジメントの支援 (行政、医療・介護関係、企業ほか)

現に介護に無い方 ...

人々に**情報提供および支援**を行い、当事者の自らの症状について理解、適切な行動に移すことにより優れた自己管理を行うことができるようにする。

セルフマネジメントを支援する介入は、医療の一連の流れの様々なポイントで実施することが可能

対象は**長期的症状を持っていないひとから、重度の長期症状や複数の長期症状を持つ人まで**含まれる。



日野リビングラボについて 対話と共感の場づくり

日野リビングラボは産学官民の対話型のプラットフォームです。
2つの特徴的な機能があります。

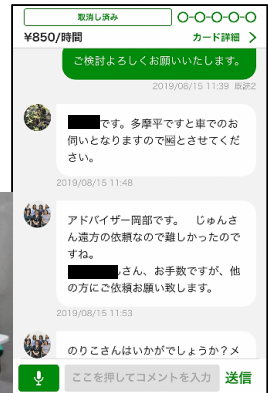
■ 日野リビングラボの2つの機能

① 事業構造を探る場（企業）

- ・利害関係者とのビジョン創発、あるべき姿の特定
- ・住民、地域と企業との協働によるノウハウの共有

【事例】

スキルシェアサービスの機能を子育てNPOと民間企業が協働開発。対話によるありたい姿と課題の特定、サービスへの実装を短期間で繰り返す手法（アジャイル開発）で実施。



② 関わりしろ・共有知を生み出す場（市民）

- ・「オープン」「共有」でチャレンジを生む環境に

【事例】

住民同士でスマホを教え合う活動が誕生。趣旨に賛同した地域企業も参加。退職者、創業者、育休中の方などが地域で課題解決力を試す機会にも。



実施事業の検討に当たっては、2018年に公表された日本経済再生本部「未来投資会議」の提言資料、「2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現」に着目しました。「健康寿命の延伸」から取組み、セルフケアセルフマネジメントの意識醸成、地域の枠組みづくりから、地域の互助体制構築、官民連携によるサービス実証につなぐアプローチで事業を進めていきます。

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現

資料3

- 来年10月の消費税率の引上げによって、2025年を念頭に進められてきた社会保障・税一体改革が完了。今後、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えた検討を進めることが必要。
- 2040年を見通すと、現役世代（担い手）の減少が最大の課題。一方、高齢者の「若返り」が見られ、就業率も上昇。今後、国民誰もが、より長く、元気に活躍できるよう、以下の取組を進める。
 - ①多様な就労・社会参加の環境整備
 - ②健康寿命の延伸
 - ③医療・福祉サービスの改革による生産性の向上
 - ④給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指す。

「現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した政策課題」

多様な就労・社会参加

【雇用・年金制度改革等】

- 更なる高齢者雇用機会の拡大に 向けた環境整備
- 就職氷河期世代の就職支援・職業的自立促進の強化
- 中途採用の拡大
- 年金受給開始年齢の柔軟化、被用者保険の適用拡大、私的年金（iDeCo（イデコ）等）の拡充
- 地域共生・地域の支え合い

健康寿命の延伸

【健康寿命延伸プラン】

※来夏を目途に策定

- 2040年の健康寿命延伸に向けた目標と2025年までの工程表
- ①健康無関心層へのアプローチの強化、②地域・保険者間の格差の解消により、以下の3分野を中心に、取組を推進
 - ・次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成等
 - ・疾病予防・重症化予防
 - ・介護予防・フレイル対策、認知症予防

医療・福祉サービス改革

【医療・福祉サービス改革プラン】

※来夏を目途に策定

- 2040年の生産性向上に向けた目標と2025年までの工程表
- 以下の4つのアプローチにより、取組を推進
 - ・ロボット・AI・ICT等の実用化推進、データヘルス改革
 - ・タスクシフティングを担う人材の育成、シニア人材の活用推進
 - ・組織マネジメント改革
 - ・経営の大規模化・協働化

「引き続き取り組む政策課題」

給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

また、同資料を参考に新たな手法として「食」・「職(役割)」の場づくりのテーマ、産学官民による対話と実証の場づくりを具体的な取り組みテーマとしました。

居場所づくりや社会参画の
推進による役割の付与

誰もがより長く元気に活躍できる社会を目指して ～健康寿命の更なる延伸～

- 誰もがより長く元気に活躍できる社会を目指して、「①健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進」、「②地域・保険者間の格差の解消」の2つのアプローチによって、「次世代を含めたすべての人の健やかな生活習慣形成等」、「疾病予防・重症化予防」、「介護予防・フレイル対策、認知症予防」の重点3分野に取り組み、健康寿命の更なる延伸を図る。

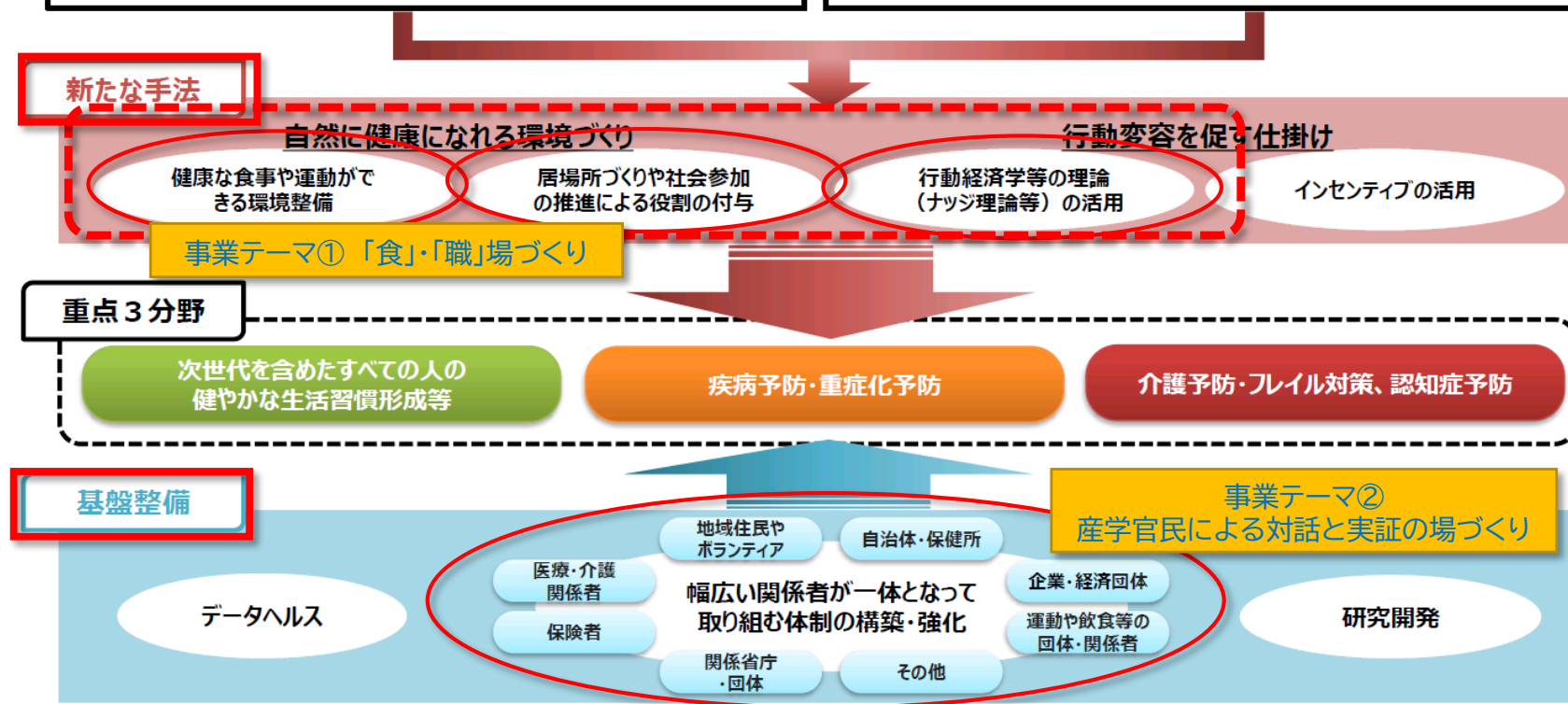
- その際、「新たな手法」や「基盤整備」の強化により、政策の実効性を高めていく。

新たな手法 → 健康な食事や運動ができる環境整備や、居場所づくりや社会参加による役割の付与等を通じた「自然に健康になる社会」の構築、行動経済学等の理論やインセンティブの活用による「行動変容を促す仕掛け」 など

基盤整備 → 幅広い関係者が一体となって取り組む体制の構築・強化やデータヘルス、研究開発の促進 など

①健康無関心層も含めた予防・健康づくりの推進

②地域・保険者間の格差の解消



人生100年時代のライフイノベーション 「食」・「職」の場づくり講座

「食」・「職」場づくり モデル地域へのアプローチ

高齢化率が高く、独居高齢者の増加と孤立が懸念される平山地域から、「食」のコンテンツ、官民連携の対話の場づくりの実績があるハウス食品と連携し、食の場づくりに取り組みました。

実施想定エリア平山の取組モデル

関心のコミュニティから実践のコミュニティへ

- ・地域互助体制（タウンマネジメントに向けた初動）の構築
- ・大学と連携した認知症予防の取組
- ・“食”を通じた健康づくりと多世代コミュニティの醸成

軽度認知症の検査
産官学連携による学習の機会
コミュニティづく

域外の人材
大学や
企業など

リビングラボの展開
多摩イベントの展開など

ICTを活用した交流プログラムの開発

企業

実証プロジェクト参加企業
(コニカ・富士通) など

・ライフログデータ
・地域互助プラットフォームなど

実証等にかかる
資金の獲得

 **House** ハウス食品株式会社

対話の場
実証参画



・平山台健康市民支援センター



平山住宅
まちづくり協議会

平山1丁目自治会
平山2丁目自治会
平山3丁目自治会
平山台交流の会
さつき会 など

ふれあいサロンひだまり
(平山2丁目)



“食”をテーマとした場づくり
情報提供、知の共有

ふれあいサロンそれいゆ
(平山3丁目)

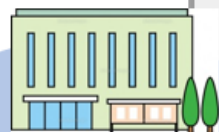
民間企業ノウハウの活用と
地域の活動への展開、承継

・認知症予防MCI
平山住民100名超参加



東京薬科大学
Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences

MCI（軽度認知障害）にかかるコホート
検査



・平山李重ふれあい館
・平山地区センターなど

 **House** ハウス食品株式会社

“食”をテーマとした場づくり
リビングラボのノウハウ



ヘルシーフード株式会社

高齢社会と食・栄養
接触嚥下・料理教室

社会福祉法人

 **日野市社会福祉協議会**

地域包括支援センター
いぎいきタウン



日野市企画経営課

別の地域では市内企業「ヘルシーネットワーク(株)」と連携し、社会教育センターが主催する介護予防プログラムに食の講座、コミュニティの機会づくりを付加した新しいプログラムの実証を行いました。



(株) ヘルシーフード・ヘルシーネットワークとの連携協定

ヘルシーフード・ヘルシーネットワーク社長
日本栄養支援配食事業協議会会長 黒田氏

「食と健康の地域づくりに関する協定」

2018年2月

1. 地域の要配慮者の食に関すること

食と健康に関する普及啓発、摂食嚥下に関する
支援体制の構築

2. その他市民の健康維持・増進に関すること

健康をテーマに、市との対話を通じて様々な連携へ
展開

認定栄養ケア・ステーション ヘルシーネットワーク

“つながる”

- ・ 栄養相談
- ・ 食に関するセミナーや研修会
- ・ 栄養情報の提供や献立づくり
- ・ スポーツ栄養指導
- ・ 料理教室の企画運営



栄養ケアステーションの概要

栄養ケア・ステーションは、栄養ケアを提供する地域密着型の拠点です。地域住民はもちろん、民間企業、医療機関、薬局などを対象に日々の栄養相談、セミナー・研修会講師、調理教室の開催など管理栄養士・栄養士が幅広いサービスを展開。

※ 「栄養ケアステーション」は日本栄養士会の登録商標です。

食の場づくりの次の展開（産学官民による対話と実証の場づくり）のイメージ

平山や高幡などのモデル地区は人的リソースや地域の資源が十分ではありません。食の場づくりの活動から、セルフマネジメントの意識を醸成し、社会課題生活課題を自分事として積極的に取り組む意識を醸成し、課題解決に取り組む地域団体、企業や大学との連携に繋がっていきます。



ハウス食品グループ本社



2019年10月から平山地区で取り組みを開始
1月6日には七ツ塚ファーマーズセンターで日野
レッドドルフィンズと農作物の収穫イベントと
料理教室を開催。来年度以降は東京薬科大との連携
に向け調整中

ヘルシーフード・ヘルシーネットワーク + 社会教育センター



認定栄養ケアステーション“つながる” ヘルシーネットワーク

- ・摂食嚥下障害（食事の飲み込み）の問題
- ・高齢者の低栄養とフレイルの課題
- ・介護職講座
+ 食の問題個別相談 など

兵庫県版 フレイル予防・改善プログラムの実施
認定栄養ケアステーション+社会教育センター

実践女子大学 食生活科学科 教授 白尾 美佳 先生



実践女子大学
実践女子大学短期大学部



食生活科学科だけでも20名以上の教授陣が在籍しており、
多くの教授が地域との連携を希望。
白尾先生がコーディネーター役となり、「食と健康」を
テーマに健康に暮らし続ける学の間づくりを検討。

講座の提案事例

1. 食の安全・安心
2. 高齢者の栄養（口コモ防止）
3. 高齢者のスポーツ
4. 食品の不思議
5. 研究室訪問 など

調布市空き家流通促進モデル構築プロジェクト

シニアのアクティブライフ応援

2019 セミナー・相談会開催!

スマイのミライ

in調布

調布に住む魅力、暮らす魅力、

イキイキとした生活を送るためには...

様々なアイデアと暮らしのヒントを集めた一日で
皆さんをお待ちします!

予約不要
参加費無料

自転車移動で
いつでもアクティブに!
電動自転車試乗体験

開催日時 **2019年11/30(土)** 10:00~15:00

会場 **京王メモリアル調布**
東京都調布市布田2-34-6

トークセッション

10:00~10:45

開催場所 1階

調布市の空き家対策と地域連携の可能性

調布市がこれからも魅力ある街であり続け、市民の暮らしが豊かであるために、行政と地域の連携で何ができるのか。行政と市民双方の立場で語ります。

調布市	調布市シルバー人材センター	ファシリテーター
空き家施策担当/ 町田 真	高齢者支援室/ 八木 憲一	会長/ 永谷 誠氏
		副会長/ 永石 正宏氏
		建築家 (FUJIMI LOUNGE運営) / 菅原 大輔氏

ミニセミナー

開催場所 1階

① 10:50~11:20

エンディングノートの書き方

エンディングノートは、自分の今までの人生を振り返り、今後の人生を考えるキッカケになります。ご家族のためにも、元気なうちに準備しておきましょう。

京王メモリアル (京王フェアウェルサポート株式会社)

③ 12:00~12:30

今から始めろ生前整理の進め方

お家にあふれるモノを整理して、快適で安全な生活を! 元気な今から始めるモノとココロのお片付け「生前整理」について分かりやすくお話しします。

京王運輸株式会社

② 11:25~11:55

空き家をそのままにしておく大変ですよ!

空き家を放置していませんか?
空き家はあなたの資産を減らす
可能性があります。

京王不動産株式会社

④ 13:00~13:30

住まいを引き継ぐために準備するポイント

築き上げてきた大切な資産を引き継ぐための準備はできていますか? 万一の時に困らないために、不動産の評価方法や相続税のことなどポイントをお伝えします。

多摩信用金庫

個別相談 10:00~15:00

開催場所 2階

① 資産運用・相続・住まいの相談 多摩信用金庫

② 老後・住まいの相談 京王不動産(株)

③ 空き家巡回・家事代行の相談 京王電鉄(株)
(京王ほっとネットワーク)

④ 住まいのリフォーム相談 ミサワリフォーム(株)

⑤ 葬儀の事前準備・エンディングノート 京王メモリアル
(京王フェアウェルサポート(株))

⑥ 生き生きとしたセカンドライフ 調布市シルバー人材センター

⑦ 片付け・引越し・生前整理の相談 京王運輸(株)

シェアサイクル体験

10:00~15:00

開催場所 駐車場特設会場

電動アシスト自転車でアクティブライフ

脚への負担が少ない電動アシスト自転車で、健康でアクティブな暮らしを実現しませんか?



調布市における多摩信用金庫と京王電鉄の連携事例
空き家の活用に取り組む調布市と沿線の活性化に取り組む京王電鉄、リバースモーゲージ(自宅を担保にした老後資金のための融資制度)を事業として行う多摩信用金庫3者の連携事業の例

日野自動車からの相談



日野自動車では未来の車両の新たな役割として、動く「施設」（建物の機能）をコンセプトに研究開発を進めています。

日野市と日野自動車は“**地域の移動の課題を解決する**”というテーマで連携しており、日野市内の住宅地（特に交通不便地域など）でどのようなニーズがあるのか、意見交換をさせて頂きたいとの相談を受けています。このようなテーマにご関心のある地域とのつなぎ、サービスの実証・実装の取組を推進していきます。

※日野自動車は既に小松市でコミュニティ交通の実証に取り組んでいます。



“動く”床屋さん



“動く”コンビニ



2019東京モーターショー出展コンセプトモデルFLATFORMER

「日野市地域公共交通連携計画」策定 運動イベント

未来のまちの「移動」について、
触れて、学んで、考える。

Hino Living Labo 日野モビリティリビングラボ

2019年 **4月20日** 土
13:30~16:30 (開場13:00)
イオンモール多摩平の森3Fイオンホール

参加費 無料 (要申込)

日野市まちづくりマスタープラン(2019年) - 未来のまちのイメージより

今年の4月にイオンモールで共同開催した
“日野モビリティリビングラボ”



グッパ! ラグッパ! ラグッ!

こどもも高齢者も参加できる
“ラグッパ体操”

by日野レッドドルフィンズ

スキルシェアをテーマとした実証

2019年に総務省の委託（市が受託する）事業として多摩平のエリアを中心に実施しました。

シェアリングエコノミー活用推進事業

- シェアリングエコノミーの推進によって、
 - 地域の既存リソースの有効活用等を進めることによる地域活性化
 - 個人間のサービス提供による行政・公共サービスの補完
 につながることが期待されている。
- そこで、地域経済の好循環の更なる拡大に向け、シェアリングエコノミーを活用して、**地域の社会課題解決を図る**ため、地方公共団体による取組を支援。

対象事業 シェアリングエコノミーを活用し地域の社会課題解決を図る取組のうち、**新規性・モデル性の極めて高いもの**

イメージ

地域における課題

- 子育て支援
- 地域の足の確保
- 空きスペース対策
- 地域人材の活用 等

地方公共団体が活用し、地域課題を解決

シェアリングエコノミー

<地域の活用されていない資源>

- ◆ 遊休スペース（空き家、廃校など） ◆ 主婦等のすきま時間
- ◆ 活用されていないスキル ◆ 使っていないモノ 等

プラットフォーム

<地域住民のニーズ>

- ◆ 一時的な活動場所が欲しい ◆ クラウドワーカーとして働きたい
- ◆ 部屋の空きスペースを活用したい ◆ 何かあった時に子育てを頼る人が欲しい 等

H30モデル事業（例）

【事業概要】（岐阜県飛騨市）

市の過疎地域活性化を目的とし、高齢者等の空きスペース等を活用した人との交流をテーマとする民泊を提供し、交流人口の拡大と地域住民の生きがいづくりを促進する。



【事業概要】（長崎県島原市）

行政による子育て支援策では不足できない部分をシェアリングエコノミーを活用し、より充実した子育て支援などを図る。
AsMamaと協定を結び、サービス利用者・提供者の登録・利用を促進する。



2020年 次のステップへの展開



シェアエコ実証により生まれた地域の動きや団体との連携を生かし、住民と課題を共有しながら連携モデルを構築しています。

① トクイのカケハシの実装（2019年度）

- ・ リビングラボを通じながら、地域の助け合いが気軽にできるシェアサービスを実証
- ・ 「スマホ教え合い教室」等が生まれ継続



② 地域団体との連携モデル（2020年度）

- ・ 「シニア層の生活をもっと豊かに」をテーマに、7団体と連携したプロジェクトを実施（地域全体のデジタル化促進）
- ・ 住民主体でCode for Hinoを立ち上げ



地域主体の場づくり、

STEP1

食を通じた関心の場づくり
能動的な社会参画意識の醸成

「食・職の場づくり」 1年目

STEP1

きっかけ作り
(10月～)

食をテーマとした場
とつながり、役割づ
くり、地域人材の発掘



サロンソレイユ
平山交流センター

移動販売

- ・京王電鉄
- ・社会福祉協議会

食・コミュニティ

- ・日野市
- ・ハウス食品
グループ本社

STEP2

場と参加者の拡大
(2020年1月～)

- ・活動の機運醸成
- ・地域と事業者の接点づくり
(対話の場の創出)



ライフスタイルセミナー
健康講座 など

サロンソレイユ、サロンひだまり
七生地区センター、平山交流センター

住まい・暮らし

- ・京王電鉄・多摩信用金庫・日野自動車
- ・社会福祉協議会・包括支援センター
- ・あいおいニッセイ、明治安田生命

食・健康・地域

- ・日野市 ・ハウス食品グループ本社
- ・ヘルシーネットワーク
- ・医師会・市立病院 ・東京薬科大学
- ・フージャース ・大塚製薬 など

STEP2

有志による社会実証
新たな生活サービスの創出

「食・職の場づくり」 2年目以降

STEP3

- ・自立的な活動組織の検討
- ・事業者との共同実証

生活者視点のリビングラボ



※ 地域での実証のイメージ

サロンソレイユ、サロンひだまり
七生地区センター、平山交流センター
平山台健康市民支援センター

地域マネジメントに向けた活動醸成

- 住民を主体とした組織の組成（まちづくりNPOなど）
- ・まちづくり協議会 ～ タウンマネジメント組織

- ・ハウス食品グループ本社 ・日野自動車
- ・ヘルシーネットワーク ・コニカミノルタ
- ・KDDI ・GEヘルスケア ・フージャース など
- ・日野市 ・日野市医師会 ・日野市立病院
- ・東京薬科大学 ・実践女子大学 ・明星大学
- ・首都大学東京 ・社会福祉協議会 ・社会教育センター
など

実証活動の普及と
地域の自立的な取り組みへ展開

介護・医療の課題

移動の課題

食・暮らしの課題

コミュニティの課題

※ 新型コロナの影響により想定事業が
実施できませんでした。

本事業に定めるKPIと実績について

■ 目標とする評価指標と達成状況について

本事業は地方創生推進交付金(補助率1/2)を活用した事業として実施するため、事業のKPI(重要業績評価指標)を右の通り設定しております。

昨年からの新型コロナの感染拡大により、「食」を通じた地域活動への影響が生じており、令和元年から引き続き③に定めたKPIが未達の状況となっております。また、実証テーマについても、地域での対話の場の設定が困難な状況であるため、令和2年度の目標値が達成できておりません。

■ 令和3年度に向けて

本事業は令和3年度が最終年度になります。事業の推進に支障がある状況が継続しており、先行きの見通しが困難な状態にあります。リモート会議や他事業との連携により柔軟に取り組んでまいります。

人生100年時代のライフイノベーション推進事業の目標値と実績

令和元年度の実績

人生100年時代のライフイノベーション推進事業			
① ヘルスケアリテラシーの向上を図る講座(プログラム)への参加者			
目標値	50名	実績値	50名
② 地域における住民の参加を求める新たなサービス・技術の実証活動			
目標値	2テーマ	実績値	2テーマ
③ 「食」を通じた新たな地域活動コンテンツへの参加者数			
目標値	100人	実績値	50人

令和2年度の実績

人生100年時代のライフイノベーション推進事業			
① ヘルスケアリテラシーの向上を図る講座(プログラム)への参加者			
目標値	70名	実績値	70名
② 地域における住民の参加を求める新たなサービス・技術の実証活動			
目標値	2テーマ	実績値	1テーマ
③ 「食」を通じた新たな地域活動コンテンツへの参加者数			
目標値	100人	実績値	30人

(参考資料)

人生100年時代のライフイノベーション モデル地区での様々な取り組み

2019年度

多摩平モデル地区の動き

多摩平の動き

多摩平では様々な施設やその運営事業者が存在しており、地域の資源をネットワーク化し、自主的な活動が創出されています。自立的な取り組み創出のモデル地区として位置づけ、その活動事例を他地域で応用展開することを目的とします。



多摩平の森自治会主催 「スナック森の泉」 7月26日、11月22日

(協力：地域包括支援センターすてっぷ、社会福祉協議会、ほか)

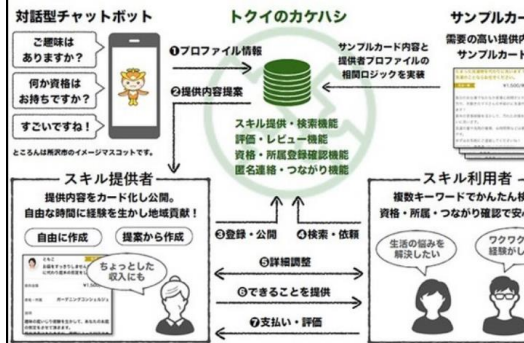
男性シニア層が地域とつながるきっかけ、役割づくり。→ ハムづくりサークル、そば打ち師匠
互助活動の次の担い手の発掘。



多摩平の森自治会主催 「防災イベント」 10月26日

防災をテーマとした地域の多世代交流。楽しんで防災活動をする多世代交流の場

多摩平の動き（続き）



日野リビングラボ 日野市主催 （協力：ファミリーサポートセンター、KDDI）

多世代をつなぐ互助ICTの活用実証



多摩平の森A3街区事業者主催 「て・と・てフェスタ」 11月3日、4日

まちびらき周年イベントとして開催、施設の連携、地域の紹介と多世代の交流

+ 多世代による見守りあいサービスの実証（見守りあいプロジェクト）

- ◆ フージャース（TOMスポーツクラブ）× ヘルシーフード = シニア世代向け栄養講座の開催 年内3~4回
- ◆ フージャース（TOMスポーツクラブ）× 市立病院（スポーツドクター） = ）

平山モデル地区の動き

まちづくり協議～地域活動



自治会をベースとした協議組織でなかなか活動につながらなかったため、サロンを中心とした自主的活動を展開

コミュニティ活動・居場所づくり



サロン「それいゆ」を中心に、ランチ会、夜のレストラン、地域イベントなどの交流が活性化

平山モデル地区の動き

地域学習・学びあいの場



住民が講師となった「お話会」の開催



企業や講師などを招聘し、健康や暮らしをテーマとした学習会を開催（写真は日本尊厳死協会をお招きし、リビングウィル（生前の意思表示）などの説明）

地域のコミュニティ活性化・買いものの不便を解消するため、社会福祉協議会×NPO法人めぐみによる地場野菜の移動販売の開始 10月1日～



京王電鉄主催の移動販売などの話し合いの場から派生し、社会福祉協議会がNPO法人めぐみ（農業）を紹介。10月から毎週火曜日にサロンでの地場野菜の移動販売が始まっている

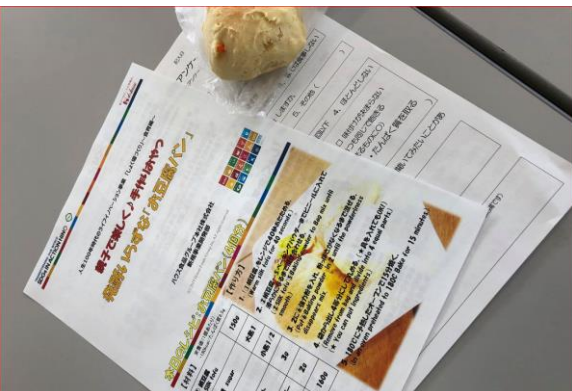
平山モデル地区の動き

ハウス（食・職）の場づくり推進事業

（日野市主催）

2019年10月～

2020年は他の地域でも展開



社会福祉協議会、地域包括支援センターも参加
サポーターとして東京薬科大の非常勤講師、アスリートフードの村田氏を雇用し、地域で持続できる取り組みとする。

食をテーマとした関心の場づくりにより、多世代の交流と地域の担い手の育成を目指す

平山モデル地区の動き

京王電鉄（移動販売とまちづくりについての意見交換）

京王電鉄は平山地区で数年前から移動販売とその拡充を進めてきたが、協議会をきっかけに平山の住民と定期的な意見交換を実施している。

移動販売に関するニーズや京王の問題認識など、それに対して、住民側がとれるアクションを提示するなど、前向きな方向で意見交換がなされている・



高幡台モデル地区の動き

CAMP in 団地イベントの開催 11月9日、10日

高幡台団地73号棟跡地（民間施設、公共施設整備検討エリア）の計画が未定のまま、未利用になっている土地を活用した「実験的まちづくり（土地活用）」として多摩平で昨年度から実施している「CAMPin団地」イベントを開催。

事業は日野市がMRIを通じて社会教育センターへ委託し実施し、14組（約50名）が参加。うち、1組が高幡台団地の在住。初対面の参加者家族同士も交流し、賑わいのうちに終わった。

残念ながら、他の団地居住者との交流は図れなかったが、通りかかる住民は非常に高い関心を持ったようで、イベント内容や趣旨について質問頂くことが多かった。また、ほぼ全ての住民がこのようなイベントの開催に肯定的だった。中には若い世帯が通りかかり、次回もあるのであればぜひ参加したいと言っていた。



通りかかりの住民の声では、施設（建物）を建てることに否定的な意見も少なくない。
改めて土地活用の実験をしながら、居住者や若年層のニーズを探ってもいいのではないかな？